

令和 6 年度浦添市観光振興計画改定業務委託  
報告書  
(概要版)

2025 年 3 月

目次
----

第1章 浦添市観光振興について	3
第2章 観光を取り巻く情勢と観光の現状整理	5
第3章 浦添市観光等実態調査（観光客・市民向け）	9
第4章 浦添市観光動態調査	13
第5章 計画改定に向けて	15

## 第1章 浦添市観光振興について

### (1) 浦添観光の基本理念

- 浦添市は、古琉球時代の中山の王城と考えられている浦添グスクをはじめとした様々な歴史を有しているとともに、新たに整備される施設やコンテンツ等がこれから育まれており、これら市内の古いモノ・コトを土台にしながら、新たなモノ・コトとの融合を図り、新たな魅力に出会うことができる、「てだこのまち」の形成を目指している。

古（いにしえ）の王城（おうじょう）と新たないびぎに会う  
てだこ（太陽の子）のまち うらそえ

### (2) 現浦添観光振興計画における将来像・数値目標（2018年→2025年）

- ①市内の各所で、地域の活動やイベント・観光プログラムが実施され、来訪者との交流で賑わいを生む。～受け皿をつくる～

	2018年	2025年（目標）
イベント等の参加者数	31万人	61万人

- ②効果的な地域情報の発信により、浦添での楽しみ方、過ごし方を、地元の方も来訪者も良く知っている。～知ってもらおう～

	2018年	2025年（目標）
ウェブサイト閲覧数	52万件	104万件

- ③市内へ観光来訪者が増え、特に宿泊を伴い、長時間滞在して浦添を楽しむ方が増える。～滞在してもらおう～

	2018年	2025年（目標）
入域観光客数	40万人 (県外23万人、県内17万人)	80万人
宿泊者数	—	16万人

- ④市内でのイベントや観光プログラムへの参加、宿泊・滞在、飲食や買い物などの増加、さらに市内産業への波及により地域経済が活性化する。～経済効果を上げる～

	2018年	2025年（目標）
観光消費額	23億円	137億円

- ⑤観光まちづくりの推進が、浦添で生活する方々の住みやすさ・働きやすさにつながり、市民が持つ浦添市への誇りを高める。～市民の満足度を高める～

	2018年	2025年（目標）
市民満足度	—	3.5（5段階評価）

### (3) 浦添観光における基本方針と諸課題について

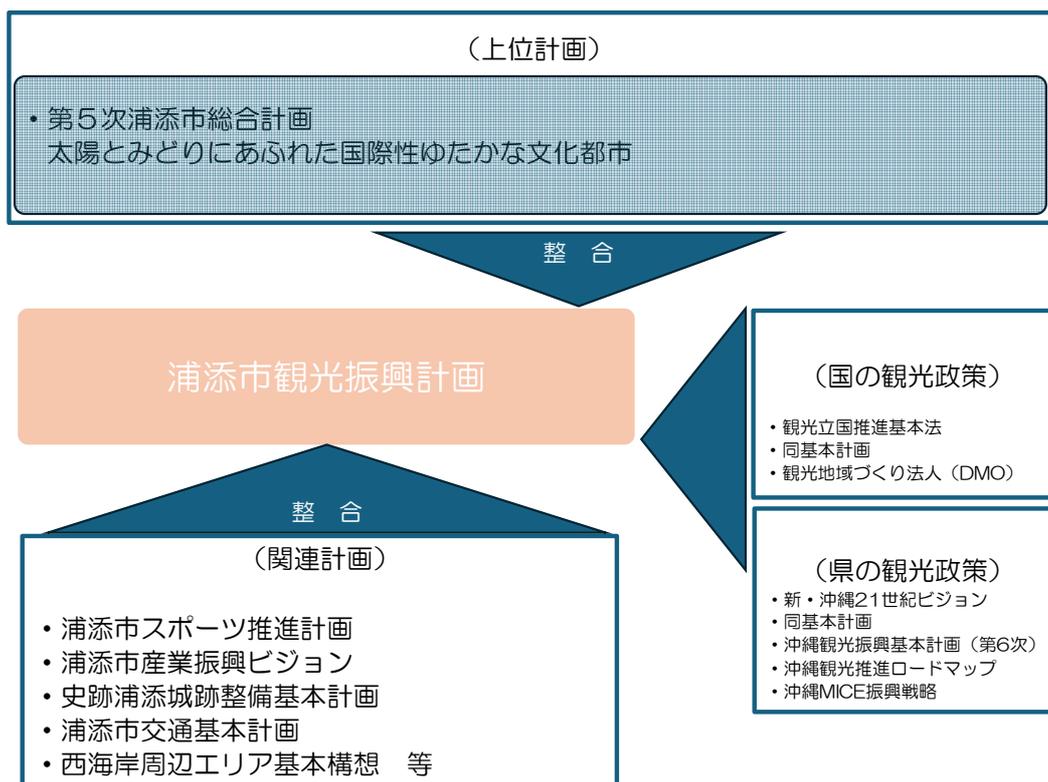
基本方針	戦略的重点施策	施策・プロジェクト	解決すべき課題（策定時に明示）
① 地域資源である生活・文化・芸能・自然・施設・環境・人を活かす浦添での過ごし方の提案	1) 地域の歴史・文化・芸能の保全・活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の歴史・文化・芸能の保存・活用。</li> <li>・自然環境の保全・活用</li> <li>・魅力的な商品(モノ・コト)の活用・造成</li> <li>・スポーツツーリズム・MICE等の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浦添市が有する<u>資源を活用しきれていない。</u></li> <li>・<u>ターゲット設定と資源連携による訴求力を高める。</u></li> <li>・既存および新たに整備が予定されている交流拠点を核として集客力を高める。</li> </ul>
	2) 施設を核とした賑わいの創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光交流拠点を核とした賑わいの創出</li> <li>・個店(中小企業等)の人材発掘・活用</li> </ul>	
② 浦添の情報発信の強化	3) 来訪者及び市民にも訴求する浦添市の情報発信の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信方法の確立(コソツツ、手法、多言語対応、その他)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来訪者だけでなく、<u>市民にも訴求することで、地域と一体での観光振興を進める。</u></li> </ul>
③ 受入環境として、滞在拠点・交通の充実	4) 受入施設の整備・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受入体制の整備・充実(宿泊施設、観光交流拠点、既存施設等)</li> <li>・交通・情報インフラの充実(2次交通、無線LAN、案内サイン、駐車場等)</li> <li>・観光地域としての空間形成(まちなみ・景観保全、サインロード等街づくり連携)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>これからの拠点整備と既存施設の柔軟な活用により、滞在型への展開を図る。</u></li> </ul>
④ 浦添観光を支える体制の充実	5) 官民による観光まちづくり推進体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光人材の育成</li> <li>・観光まちづくり推進体制の構築(DMO、官民連携、観光防災・防犯)</li> <li>・広域連携の推進(他市町村との連携)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>持続的な観光まちづくりを図るための充実した体制構築が必要。</u></li> </ul>
⑤ マーケティング・経済波及効果の検証体制の充実	6) マーケティング情報のフィードバックの仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マーケティング戦略の構築</li> <li>・観光振興による経済波及効果の検証(他業種連携、データ収集)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>マーケティングに基づく観光事業の推進により、効果的に経済効果を高める。</u></li> </ul>

## 第2章 観光を取り巻く情勢と観光の現状整理

### (1) 浦添観光における現状整理

#### 1) 浦添の観光政策について（上位計画、関連計画等の整理）

現浦添市観光振興計画は、上位計画、関連計画等について、浦添市の上位計画である第5次浦添市総合計画（基本構想・後期基本計画）及び浦添市都市計画マスタープラン等の関連計画と密接に関連し、かつ国及び沖縄県の観光関連計画等との整合を図る必要があります。



出所：浦添市「浦添市観光振興計画」を踏まえて作成。

#### 2) 浦添市への来訪者について

浦添市への来訪者(観光客やビジネス客も含む)については、近年より携帯 GPS などのモバイルデータを活用した人流でのある程度での状況把握が可能となっています。

ここで沖縄観光コンベンションビューローがウェブサイトで公表しているデータを参照すると、沖縄県全体(ここでは41市町村の合計をしている)では、県内全体に占める県外客の割合が9.90%(2024年)、県内客が90.1%となっています。同様に浦添市では、県外客が3.52%(同上)、県内客が96.5%となり、沖縄県と共に県内客のウェイトが圧倒的に多いことがわかります。

ちなみに本データでの県外客には観光客以外にも出張などで来訪するビジネス客等も含まれており、また当該地域への入込時点でカウントされることから延べの人数と捉える必要があります。ゆえに人数(実数)そのものだけを使用するというよりも、図表の中段や下

段で示した通りに全体に占めるウェイト（属性別の構成比）などを用いることで現況把握を行うことができます。（第4章の動態調査の部分で詳細を整理している）

例えば、同データで来訪者の浦添市のウェイトをみると、図表の下段で示す通り、県外客が3.05%、県内客が9.18%となっていることがわかります。

図：人流データを活用した浦添市への来訪者

①沖縄県			②浦添市			単位：人
	2024年	2023年		2024年	2023年	
県外	65,797,427	63,928,225	県外	2,008,015	1,876,140	
県内	598,713,982	608,143,335	県内	54,962,975	56,066,016	
合計	664,511,409	672,071,560	合計	56,970,990	57,942,156	

①沖縄県の内訳構成比率			②浦添市の内訳構成比率			単位：%
	2024年	2023年		2024年	2023年	
県外	9.90	9.51	県外	3.52	3.24	
県内	90.1	90.5	県内	96.5	96.8	
合計	100.0	100.0	合計	100.0	100.0	

③沖縄県に占める浦添市の割合（②／①×100）

	2024年	2023年
県外	3.05	2.93
県内	9.18	9.22
合計	8.57	8.62

出所：沖縄観光コンベンションビューロー「おきなわ観光地域カルテ」より作成。

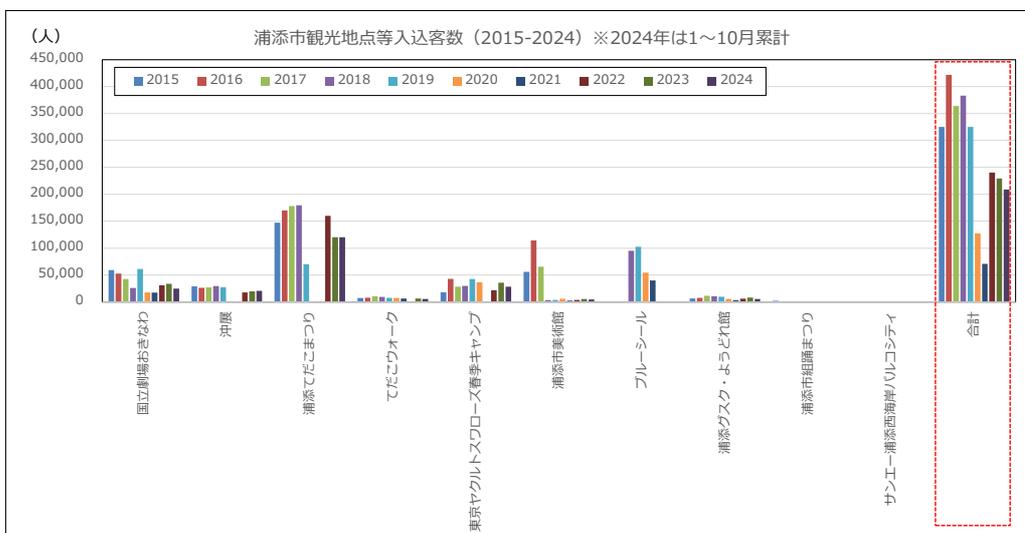
注：上記図表の上段は沖縄県全体と浦添市内の来訪した方の人数を示す（数値は暦年の値）。中段には、それぞれの県外、県内客の合計に占める割合を示している。下段は沖縄県全体に占める浦添市の割合を示す。

### 3) イベント等の参加者数の把握について

今回、浦添市内イベント等の参加者数については、各拠点・地点で取得しているデータを活用して整理しました。本データは現観光振興計画の策定時（目標設定時）に活用されたものであり、目標達成の有無などについては直近の年次を持って当初の目標値を比較することで達成の有無を整理しています。また、将来の目標値の設定に際しては、直近年次の実数をベースに先述した推計した観光客数に対する割合を用いています。

各拠点におけるデータ取得（人数のカウント方法、属性別での取得等）方法については、今後、人流データ等の他の指標との整合性を含めて議論する必要があります。

図：浦添市観光地点等入込客数の推移



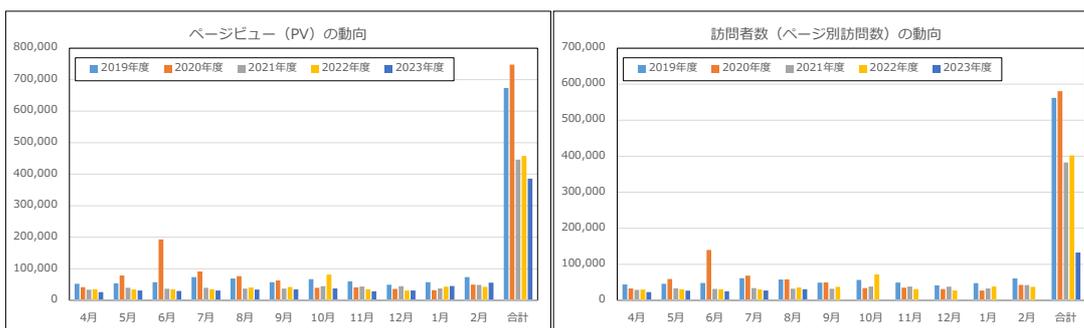
出所：浦添市観光振興課。注：データは暦年。注2：上記数値は10地点の合算値（国立劇場おきなわ、沖展、浦添てだこまつり、東京ヤクルトスワローズ春季キャンプ、浦添市美術館、ブルーシール、浦添グスク・ようどれ館、浦添市組踊まつり、サンエー浦添西海岸パルクシティ）

#### 4) ウェブサイト閲覧数について

現在、同関連指標においては、うらそえNaviにおける「PV（ページビュー）」及び、「ページ別訪問者数（訪問者数）」が活用でき、時系列で把握することができます。しかしながら、全体的な注目度や閲覧数などが把握できるだけに止まっています。

今後は、どのような方がどのようなページを閲覧しているのか、どのような情報を発信すれば属性などに関する情報把握を行なう必要があります。

図：うらそえナビのページビュー等の動向



#### 5) 観光消費額

静態調査結果（第3章）から該当数値を抽出すると以下の通りとなります。国内県外客、市外県内客において単純平均した値です。しかしながら、双方ともに極端に大きな金額を回答した方の影響などもあり、外れ値を除外した値での整理を行う必要がありますが、ここで

は結果全体を単純平均した値を用いています。

図表 2-6：浦添市内での一人当たり消費支出額（目安）

項目	国内県外	市外県内
平均値	14,746	15,713
中央値	5,000	5,000
MAX	170,000	800,000
MINI	0	0
最頻値	0	10,000

#### 6) 市民満足度

本指標については、総合計画改定時に行われる（策定に向けて実施される）「市民アンケート」の値に基づいていますが、毎年実施される調査ではないことなどから、浦添市を来訪する観光客への静態調査（第3章）から得られた「浦添市内旅行に関する満足度」等を活用することで定期的な現状把握（目安）を行う必要があります。

図表 2-7 浦添市旅行における満足度（イメージ）

	国内県外客 (%)	市外県内客 (%)
旅行全体	39.0	79.3
宿泊施設	33.9	50.9
観光施設	38.4	64.6
食事	34.8	78.2
土産品	33.9	62.4
海の美しさ	43.2	65.7
景観	43.9	72.3
交通インフラ	33.5	47.6

出所：来訪者向け静態調査

注：上記は全体に占める「大変満足」と「やや満足」の合計値の割合を示す。

## (2) 直近実績値の整理（現計画策定時と足下の現状比較）

※市民満足度については、2018年時点の数値がなく、目標値の参考とした調査も継続実施されていないため、割愛。

	2018年	2023年 又は 2024年 (実績値)	
イベント参加者数	31万人	23万人	2020～2022年にコロナの影響でイベントの中止が多く、予想よりも参加者増加の伸びが見込めなかったと考えられる。
ウェブサイト閲覧数	52万件	38万件	2020年度までは堅調であったが、コロナの影響により減少に転じ、その後の回復が芳しくない状況がうかがえる。
入域観光客数	40万人 ・県外23万人 ・県内17万人	23万人 (県外のみ)	前回調査から算出方法を改変したため、単純な比較は困難である。2020年からコロナの影響により減少し、その後は細かな増減を繰り返しながら、徐々に回復傾向にある。(県外客のみ)
宿泊者数	—	3.6万人	コロナの影響を受け2020～2022年は減少傾向にあったが、2022年後半、市内に新たな宿泊施設がオープンした影響もあってか、微増の傾向がうかがえる。
観光消費額	23億円	34億円	実績値については、県外観光客の消費金額×入域数にて算出

○一部数値については、人流データやアンケート結果から、より正確な数値を算出すべく算出方法を改変したため、数値の減少がみられるが単純な比較は困難である。

○2018年時点の実績値から、高い増加率で推移する想定で2025年目標値が算出されていたが、実際にはコロナ禍によって大幅な減少があり、その後増減を繰り返しながら、徐々に回復している傾向があり、目標値自体が過大に設定されていたといえる。

### 第3章 浦添市観光等実態調査（観光客・市民向け）

#### （1）実施概要

今回は以下のとおりに実施しました。

	来訪者アンケート	市民アンケート
対象者	国内県外、市外県内 （海外客は除く）	浦添市内在住者 （在学・在勤は除く）
実施期間	2025年2/14～17 （4日間）	2025年1/31～2/20 （21日間）
実施方法	WEBアンケート （実施は民間アンケート会社へ依頼）	同 左
回答数	581 （国内県外310、市外県内271）	205

#### （2）実施結果

静態調査においては、今回、沖縄県外在住者（国内県外客）及び沖縄県内在住者（市外県外客）に対して、それぞれに沖縄旅行と浦添観光についての訪問時の実態を尋ねています。

##### ①県外在住者向けアンケート

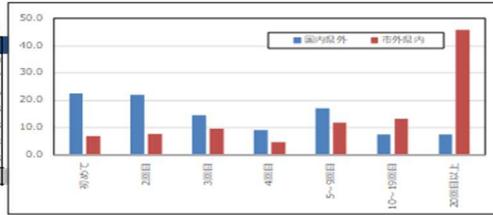
来訪時の一人当たりの旅行総額をみると、国内県外客では「5～10万円未満」が約半数を占めており、市外県内客では「5万円未満」が全体の7割近くを占めています。

また、浦添市内での一人当たり支出額の内訳をみると、国内県外客では「宿泊費」や「娯楽・入場費」、「その他」で0円が全体の半数以上をしており、「飲食費」や「土産・買物費」で3,000円未満が全体の6割程度を占めています。他方、市外県内客では「宿泊費」や「娯楽・入場費」、「その他」で0円が全体の6割以上を占めており、「交通費」や「土産・買物費」、「飲食費」で3,000円未満が多くしていることがわかります。

浦添市観光の満足度について、国内県外客では「該当しない」が各項目で3割前後（宿泊施設は約4割）を占めており、「景観」や「海の美しさ」に対する満足度（大変満足+やや満足）が4割を超えており、それ以外の項目では「交通インフラ」や「土産品」、「食事」、「観光施設」、「宿泊施設」で4割以下となっています。他方、市外県内客でも「該当しない」が各項目で3割前後（宿泊施設は約4割）を占めており、「宿泊施設」や「交通インフラ」に対する満足度が全体の約5割を占めている以外は6割以上が満足しています。

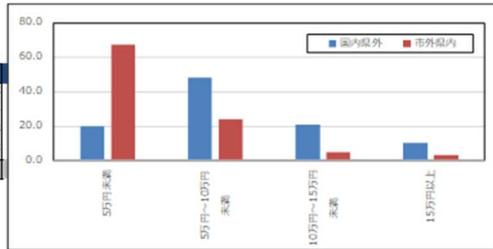
Q4:あなたが直近の浦添市を訪問した沖縄旅行は何回目ですか。(SA)

No	項目	(回答数)				(% )			
		国内県外	市外県内	国内県外	市外県内	国内県外	市外県内	国内県外	市外県内
1	初めて	70	19	22.6	7.0				
2	2回目	68	21	21.9	7.7				
3	3回目	45	26	14.5	9.6				
4	4回目	28	13	9.0	4.8				
5	5~9回目	53	32	17.1	11.8				
6	10~19回目	23	36	7.4	13.3				
7	20回目以上	23	124	7.4	45.8				
合計		310	271	100.0	100.0				



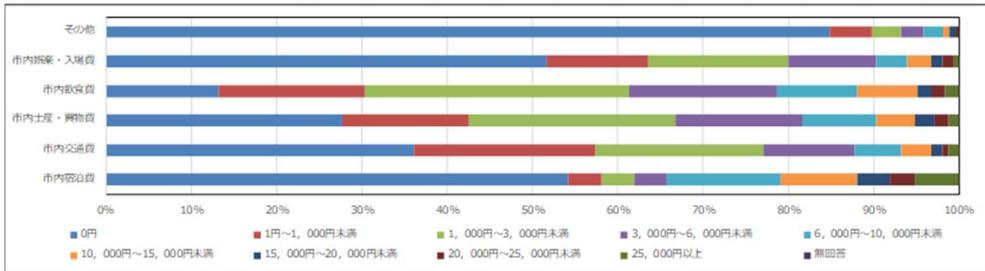
Q7:直近の浦添市を訪問した沖縄観光の旅行総額(一人当たり/税抜き)をお答えください。(SA)

No	項目	(回答数)				(% )			
		国内県外	市外県内	国内県外	市外県内	国内県外	市外県内	国内県外	市外県内
1	5万円未満	62	183	20.0	67.9				
2	5万円~10万円未満	150	66	48.4	24.4				
3	10万円~15万円未満	65	13	21.0	4.8				
4	15万円以上	33	9	10.6	3.3				
合計		310	271	100.0	100.0				

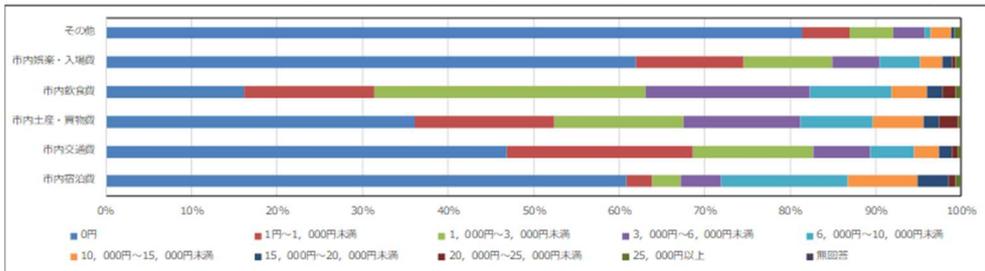


Q17:直近の浦添市を訪問した沖縄旅行において、浦添市だけの支出額(前問で回答した一人当たりの総額)の内訳をお答えください。

	(回答数)										合計
	0円	1円~1,000円未満	1,000円~3,000円未満	3,000円~6,000円未満	6,000円~10,000円未満	10,000円~15,000円未満	15,000円~20,000円未満	20,000円~25,000円未満	25,000円以上	無回答	
1 市内宿泊費	168	12	12	12	41	28	12	9	16		310
2 市内交通費	112	66	61	33	17	11	4	2	4		310
3 市内土産・買物費	86	46	75	46	27	14	7	5	4		310
4 市内飲食費	41	53	96	54	29	22	5	5	5		310
5 市内娯楽・入場費	160	37	51	32	11	9	4	4	2		310
6 その他	224	13	9	7	6	2	2	1	0		264



	(回答数)										合計
	0円	1円~1,000円未満	1,000円~3,000円未満	3,000円~6,000円未満	6,000円~10,000円未満	10,000円~15,000円未満	15,000円~20,000円未満	20,000円~25,000円未満	25,000円以上	無回答	
1 市内宿泊費	165	8	9	13	40	22	10	2	2		271
2 市内交通費	127	59	38	18	14	8	4	2	1		271
3 市内土産・買物費	98	44	41	37	23	16	5	6	1		271
4 市内飲食費	44	41	86	52	26	11	5	4	2		271
5 市内娯楽・入場費	168	34	28	15	13	7	3	1	2		271
6 その他	205	14	13	9	2	6	1	0	2		252

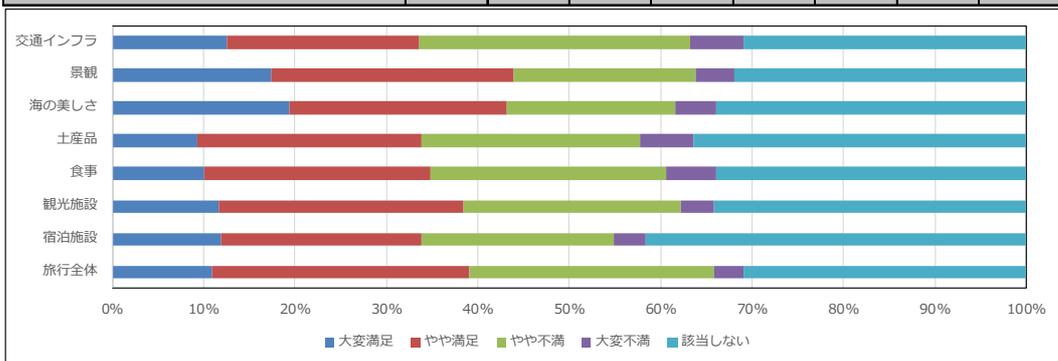


Q32 今回の浦添市内旅行について、それぞれの満足度をお答えください。(SA)

国内県外

(回答数)

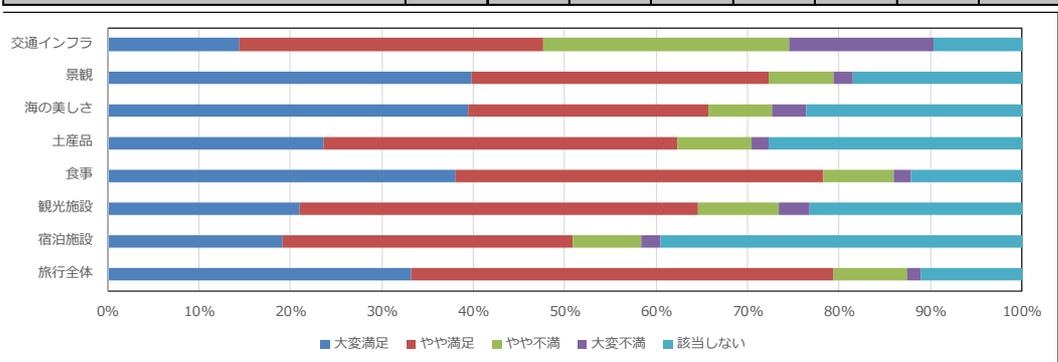
No	項目	旅行全体	宿泊施設	観光施設	食事	土産品	海的美しさ	景観	交通インフラ
1	大変満足	34	37	36	31	29	60	54	39
2	やや満足	87	68	83	77	76	74	82	65
3	やや不満	83	65	74	80	74	57	62	92
4	大変不満	10	11	11	17	18	14	13	18
5	該当しない	96	129	106	105	113	105	99	96
合計		310	310	310	310	310	310	310	310



市外県内

(回答数)

No	項目	旅行全体	宿泊施設	観光施設	食事	土産品	海的美しさ	景観	交通インフラ
1	大変満足	90	52	57	103	64	107	108	39
2	やや満足	125	86	118	109	105	71	88	90
3	やや不満	22	20	24	21	22	19	19	73
4	大変不満	4	6	9	5	5	10	6	43
5	該当しない	30	107	63	33	75	64	50	26
合計		271	271	271	271	271	271	271	271

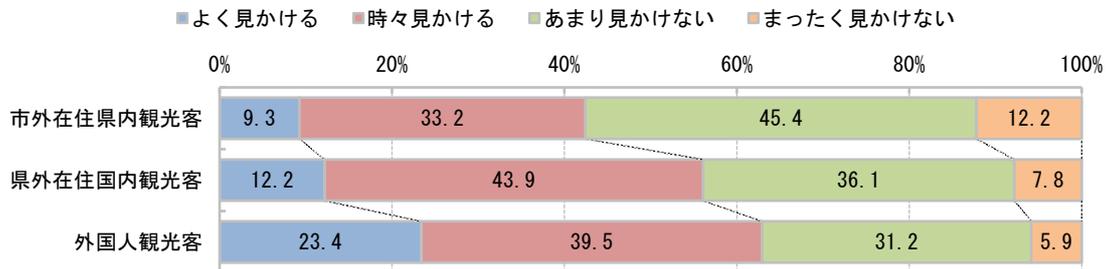


②市民向けアンケート調査結果

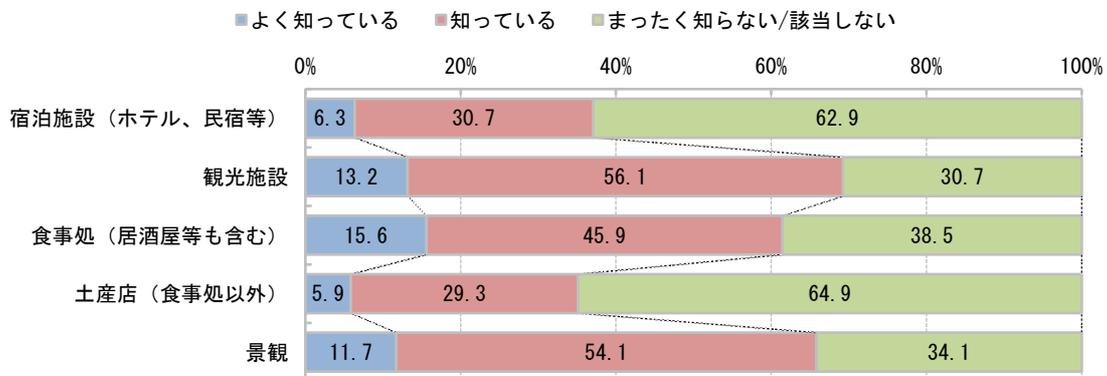
浦添市市民が観光客を目にする機会は、【外国人観光客】、【国内在住県外観光客】、【県内在住県内観光客】の順に多い。一方で、人流データでは県内在住者の来訪が多いことから、県内観光客を認知できていない可能性も考えられる。

観光に関連するスポットの認知度では、【宿泊施設】と【土産店】において他のスポットと比較して認知度が低い結果となった。

浦添市内で次の観光客を見かけることがありますか。



あなたが住む浦添市について、観光客が多く訪れる下記項目についてどの程度知っていますか。また、知っているスポットを教えてください。



## 第4章 浦添市観光動態調査（令和6年度を主な対象としたデータ（GPS）分析）

### （1）分析結果のまとめ

#### 【時系列分析のまとめ】

2021年から2024年の浦添市の来訪者の動向を分析すると、県外客、市外県内客、市内客のそれぞれに異なる特徴が見られます。浦添市の県外客数は、県全体や那覇市ほどの急増は見られないものの、一貫して増加を続けており、2024年においても増加傾向が鈍化していない点が特徴的です。一方、市外県内客については、県全体の減少傾向と同様に微減傾向にありながらも、一定の集客力を維持しています。市内客に関しては、浦添市内で消費が完結している割合が減少傾向にあり、隣接する那覇市や宜野湾市への流出が進んでいることが示唆されます。

#### 【来訪地（スポット）分析のまとめ】

浦添市の観光動向を分析すると、訪問者の特性ごとに適切なターゲット層を設定し、それに応じた施策を展開することが求められます。

総じて、浦添市の観光振興には、県外客向けには観光資源の魅力発信とイベント活用、市外県内客向けには商業施設を活かしたリピーター施策が必要です。また、性・年代ごとの特

性を踏まえたプロモーションを展開し、多様なニーズに対応することが求められます。

#### 【時間分析のまとめ】

昼間（10時～17時）は最も訪問者が多く、「サンエーパルコ」や「字経塚（サンエー）」といった商業施設に集中しています。市外県内客や日帰り客が多いため、ショッピングと観光を組み合わせた施策が有効です。地域限定商品の販売や、近隣の観光スポットへの回遊ルートを設けることで、滞在時間の延長を促します。夜間（18時～23時）は、「城間4（リウボウ）」や「当山2（パークレーズ）」などの商業施設や飲食店の利用が増加します。宿泊客の活動時間帯でもあるため、ナイトマーケットの開催や、宿泊施設と連携した夜の観光プログラムが効果的かもしれません。深夜（24時～28時）は、「アラクージュ周辺」などの宿泊施設周辺に一定の訪問者が見られます。

#### 【宿泊先分析のまとめ】

浦添市への宿泊客を増やすためには、宿泊施設周辺の観光資源を活用し、ターゲット層ごとに適切な施策を展開することが重要です。しかし、県外客の宿泊は主に那覇市や恩納村に集中し、浦添市内の宿泊施設には限りがあるため、これらの地域の宿泊者を浦添市の観光スポットへ誘導する施策が求められます。特に、恩納村の宿泊者は「ステイツサイド周辺」への訪問が多く、異国情緒のあるカフェや雑貨店への関心が高いことが分かります。この層に対しては、浦添市の観光資源を活かした体験型観光プラン（例えば、沖縄の文化と海外の雰囲気を感じさせたイベントやフォトスポット巡り）を展開し、宿泊先からのアクセスを容易にする移動支援施策を導入することで、訪問者数の増加が見込めるかもしれません。

## （2）目標値の推計

市内へ観光来訪者が増え、特に宿泊を伴い、長時間滞在して浦添を楽しむ方が増える ～ 滞在してもらう ～

	2025年	2030年	2035年（目標）
入域観光客数 （県外）	24.9万人	40.5万人	53.8万人
宿泊者数	3.9万人	6.3万人	8.3万人

#### ＜第2次観光振興計画期間（10年）の目標値＞

平成30（2018）年3月に策定された現行計画の策定時には、浦添市への入域観光客数に関するデータは存在しませんでした。よって、目標値は基本的に、Webモニター調査の結果から得られた浦添市への入域観光客数のシェア（来浦率）を、県外国内客については、

2020、2025年共に2.76%、県内客は6.43%と推計し、別に求めた両年の沖縄県の入域観光客数（予測値）に掛け算出しています。

今回用いたデータから計算される2021年と2024年（2020、2025年のデータは存在しないため直近のデータで計算しました）の県外国内客の来浦率は、3.49%と3.05%、県内客が6.00%と6.08%とであることを考えると、両年の県外客のこの方法は、浦添市を訪れた来訪者のデータに基づかない点、かつ沖縄県への入域客の動向の影響を、そのまま受ける問題点がありました。したがって、予測時には「コロナ禍」は全く加味（予見）されていなかったことが目標値を過大にした、逆に言えば、目標値の下方修正の主因です。

また、今後は携帯GPS等の人流データの利用が可能となり、市町村以下の区画（単位）の来訪データも入手できるようになることから、現行計画策定時の目標値との調整は行わず、下方修正のまま予測法の統一（刷新）を図ることとしました。新たな予測法は、浦添市への来訪データに回帰分析を行い、その値を外挿（将来に延長）するという、より典型（一般）的な時系列分析手法に則っています。

## 第5章 計画改定に向けて

### （1）審議会等開催（全体像）

審議会等開催は以下のとおり行いました。

①第一回の進め方：「作業部会・検討委員会」→「専門部会」→「審議会」の流れを想定。

- ・**議題**：浦添観光の現況把握と観光振興についての振り返り
- ・**目的と概要**：現計画（進捗確認等を含む）を振り返りつつ、各所における観光振興に関する目線合わせを行いました。

②第二回の進め方：同上。

- ・**議題**：浦添市観光振興の方向性等に関する検討（例：現計画の方針を踏襲する既定路線パターン、もしくは新たな要素を含む新規路線、またはその両方）
- ・**目的と概要**：実態調査の中間結果等を踏まえ、浦添市観光の目指すべき姿や基本方針、重点施策（現計画のKPIを含む）の改定等に向けた評価や検討を行いました。

③各会議体での実施イメージ：以下のとおりで実施しました。

開催時期	第一回	第二回
会議体		
作業部会（市各所係長）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浦添市観光の目指すべき姿の共有等（例示：現行計画における将来像、観光振興等の在り方）</li> <li>・各課関連施策の達成情報報告等</li> <li>・計画改定に向けた実態把握等調査概要の共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実態調査等の中間結果を踏まえた現計画に対する評価（議論）</li> <li>・浦添市観光の目指すべきと新規計画の改定に向けた視点や要素等に関する意見等聴取。</li> </ul>
検討委員会（市各所課長）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上記と（合同で）併行し議論する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上記と（合同で）併行し議論する。</li> </ul>

		もしくは、部会の結果共有と意見等聴取。
専門部会（審議委員）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現計画における目指すべき姿の共有（将来像や観光振興の在り方等）</li> <li>・各課関連施策の進捗状況報告</li> <li>・改定に向けた調査概要の共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政サイドによる浦添市観光振興の方向性等の共有・報告等（例示：課題認識、方向性）</li> <li>・現計画への検証の視点の提示等</li> </ul>
審議会（審議委員）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浦添観光の将来像と観光振興の方向性に関する意見等聴取</li> <li>・現計画検証に向けた視点等整理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現計画に対する評価（例示：将来像、基本方針、重点施策等に対する意見等聴取）</li> <li>・計画改定に必要な視点や要素</li> </ul>
成果（アウトプット）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浦添観光に関する現状整理等</li> </ul>	*新規計画策定に必要な視点を得る

#### ④審議会参加者名簿

	氏名	所属
1	金城 盛彦	国立大学法人 琉球大学 国際地域創造学部 観光地域デザインプログラム 大学院観光科学研究科 教授
2	眞眞 嗣正	浦添商工会議所 観光サービス部会 部会長
3	千住 直広	一般社団法人 浦添市観光協会 事務局長
4	銘苅 良光	浦添市文化協会 会長
5	比嘉 良仁	公益社団法人浦添青年会議所 理事長
6	眞喜志 一輝	浦添まちづくり元気ネットワーク 会長
7	山城 興光	浦添市商店会連絡協議会 会長
8	玉那覇 清美	NPO 法人うらおそい歴史ガイド友の会 副理事長
9	平良 輝光	沖縄ツーリスト(株)中部外販センター
10	糸数 勝範	公益財団法人国立劇場おきなわ運営財団事業課長
11	中西 聡明	浦添・宜野湾漁業協同組合 代表理事組合長
12	和宇慶 暁	ホテル アラクージュ オキナワ 総支配人
13	宮国 良和	株式会社 沖縄美健販売 代表取締役社長

## 2) 浦添市が観光振興の効果検証を行うための手法提案

### ①観光振興に係るデータ収集分析手法

#### 1) 静態調査

来評者向け（国内県外、市外県内）の動向把握については、浦添市内における一人当たり消費額の把握や経済効果等を中心にそれぞれに向けて定期的な（例えば年次での実施等）調査実施等の検討を行う必要があります。但し、現状としては国や沖縄県ベースでは定例的に実態把握等のための調査を行なっているものの、市町村ベースでは独自調査を定期的にも実施するには財政的にも専用人材の配置等の物理的課題も多いと考えられます。また、行政機関（内の部署間）以外にも各種団体等においても（個別に）類似する情報収集や調査実施を行なっていることもあり、作業が重複している可能性もあります。さらに、日本国内への来訪が増勢するインバウンドについて、各地域への入込量の増加等を見据えると、多言語での対応も必要となってきます。これらは観光庁の主導の下、各地でのDMO（観光地域づくり法人）による実態把握やマーケティング戦略の立案を行う動きも踏まえて情報収集等を行う必要があります。

#### a) 観光地としてイメージを「見える化」：各主体が捉える観光イメージの整理と確認

	DMO	行政	地域住民	民間事業者
歴史・文化・自然	●	●	●	●
自然・海等	●	●	●	
食・土産・工芸	●	●		●
スポーツ・イベント	●	●		●
ショッピング			●	●
レジャー・アクティビティ・体験	●	●		●
その他		●		●

#### b) 観光地関係団体の役割等を「見える化」：執行のモレやダブリの整理と確認

	DMO	行政	商工会議所	民間事業者
誘客営業	●			●
受入				●
商品開発				●
情報発信				
イベント対応	●	△	●	●
施設整備		●		●
観光戦略設計				

マーケティング				
---------	--	--	--	--

※ a)、b) とともに各所が新たに取り組む項目にチェックを付けています。

## 2) 動態調査

今回、携帯 GPS データを活用した人流データ等を活用したことで、従来に比べて来訪者の移動に係る動向把握が格段に容易となりました。例えば、時系列で他市町村との動向把握、来訪者等の把握、時間帯での把握、旅程の把握、周遊動向、観光施設等の主要なスポットにおける動向把握等が行えるようになっていきます。本報告書(第4章)においても、浦添市内における来訪者の動向把握に関する手法等整理を含めたさまざまな試みを行っています。

今後の活用に向けては、さまざまなデータが存在する中、それぞれの特徴を把握した上で来訪者数の実数だけでなく、合計値、あるいは小計に対する比率や属性別の構成比を可能な限り表記することで、実態に近い理解の助けにあり、例えば、計画目標値の推計等にも有効であると考えます。

## 3) その他

行政による事業進捗把握と関連部署間で実効性を高めるために情報共有等に関する場の開催を定例的に行うことが求められます。その中で(先述の通り)、観光に係る行政や各種団体等における知見を来訪者やそれを支える市民に向けた施策展開に繋げていくことでより満足度の高い取組等が期待されます。

### ②観光振興施策の成果指標設定方法

今回の基礎調査等では、前回調査実施時よりデータ入手や分析手法等が拡充されたことで、浦添市ハインバウンドを除く来訪者等の動向把握を試みる事ができました。特に、来訪者の種別、属性別での把握を通じて、浦添市観光におけるメインターゲットの整理、受け入れ側である市民の観光に対する意識等も含めて定点で捉えることが可能となります。ゆえに現計画で定める目標数値(イベント等の参加者数、ウェブサイト閲覧数、入域観光客数、宿泊者数、観光消費額、市民満足度)の振り返りも計画策定時より実施しやすくなりました。

今後の成果指標設定等については、計画策定時で定めた指標を踏まえつつも、社会変化等も加味した実態も少しずつ織り込んでいく(検討していく)必要があります。来訪者のメインターゲットを整理した(設定した)上で、その動向を踏まえた実態把握を行う必要があります。例えば、国内県外客や市外県内容は、浦添市来訪に際して、何を求め、どのような行動をとっているのか等については、実数や消費額などの現行指標を継続して把握していく必要があります。また、(それらターゲットに対する)適切な情報発信のあり方について、ウェブ閲覧動向等の把握も欠かせません。多種多様な情報入手が容易にできる昨今では、より詳細かつ他データとの連携を見据えた実態把握(静態調査と動態調査との紐付け等の検討)が求められています。その上で、現計画と連続性や整合性を持った把握の仕方や指標設

定を行う必要があります。

### ③観光計画の進捗管理手法

現在も行なっている委員会等開催に加えて、先述した行政内外での意見交換等も含めた会議体の実施も有効だと考えます。

また、市民アンケート結果検証等（追加意見の聴取等の意味も含む）のため、浦添市市民等を含むワークショップ開催等を行うことも有効な手段だと考えます。

下記図表はワークショップの手法に関する例示です。（基本的には4～6人の小グループに分かれて対話を行うイメージ）

図表 5-1：ワークショップ開催手法（イメージ）

手法名（例）	内 容
ワールドカフェ	4～6人程度の少人数のグループで対話を行った後、メンバーをシャッフルする。各テーブルで別の視点やテーマを定めたりすることにより、議論を深めたり、アイデアを膨らませていくことができる手法。何回か繰り返した後、各グループの1人がまとめの報告を全員に行い、話し合ったことの共有を行う。
ロールプレイ	様々な属性や思いを持つペルソナを設定したカードを配布し、参加者はそこに書かれた人物になりきって議論を行う。多様な状況に置かれた人々に対しての相互理解を深め、視点を変えて議論することができる手法である。
ブレインストーミング	付箋や模造紙に特定の「問い」への答えやアイデアを沢山書き出していく。出た意見は、KJ法と呼ばれる、類似したものをグルーピングしていく手法でまとめたり、因果関係で並べたり、地図に配置したり、評価基準や時間軸を定めて順番においていく等の手法によって分析し、結論を探るために使用する。
フィッシュボウル	会場の中心に3～10人程度がイスに座り円を作って対話を行う。他の参加者は、円を見ながら囲むように座り、中心にいるメンバーの対話が聞けるようにする。円のうち1つのイスは空席として置いておき、意見を言いたくなった周りの参加者が対話に途中参加できるようにする。中心の円に座っているメンバーも入れ替わりながら対話を勧める方法。
その他	絵を書いてみる、プロトタイプ（試作品）を作ってみる、ゲーム化した上でプレイした感想を交換しあう。